

## 協働事業プロセス相互検証シート

### 1 事業計画段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 拠点が各地域と協働する際に、各地域の特徴を踏まえた関わりと、拠点と区の役割の整理が必要だと共有することができた。
- 定例会や日常業務の連携で、認識の違いについてはそれぞれ持ち帰って検討することができた。
- 新規事業やイベントを含む拠点事業については、子育て家庭のニーズを踏まえて話し合いで決めていた。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- 各年度当初の事業計画を立てる際に、5年の振り返りの視点を確認する必要がある。
- ニーズについて、区と拠点がお互いの認識の違いがないか確認しあう必要がある。
- ニーズ把握については、新年度の目標に反映させきれなかったため、改善が必要である。

### 2 事業実施段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 意見は率直に伝えられており、お互いできる限りの取り組みをしている。
- 定例会で詳細に報告されており、共有されている。
- 事業を進める中で困難なことがあれば、お互いに共有し協力しあっている。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- 拠点と区の役割の違いもあり、お互い対等な関係となれるよう配慮が必要である。
- 目標・ニーズについては5か年の課題を視野に入れながらの振り返りが必要である。
- 年度内に行う事業については、事業の進捗に応じて、目標達成ができるスケジュール管理が重要である。

### 3 事業の振り返り段階

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 区はひろばスタッフの状況を改めて知り、拠点の人的体制の現状を再確認した。
- 目指す姿と、振り返りの視点の捉え方の難しさについて認識し共有することができた。
- 人材育成について、区と拠点との認識の違いを確認することができた。
- 振り返りを通し、利用者支援事業を展開していく難しさを再認識した。
- 目指す拠点の姿や課題や目標の捉え方など、今回の区と拠点の振り返りで再認識できた部分があった。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- 幼稚園・保育園情報のニーズが高いため、利用者支援事業と保育・教育コンシェルジュ、ネットワーク保育士との協力体制の連携・構築が必要である。
- 利用者支援事業を周知し理解を広げていくための、情報の整理や伝え方の検討をしていく。
- 今後の子育て支援の方向性に合わせた、人材育成、ネットワークについて検討が必要である。
- 相談について、ひろば事業と利用者支援事業の対応の違いについて再確認が必要である。